

平成20年11月4日

島田市幼・保園保護者 様
小中学校保護者 様

島田市教育委員会
委員長 染谷絹代

(教育委員会からの提言)

顔 知る、名 知る、ところ 知る

- ・ 「学校から帰ってくる低学年の女の子に、『お帰り』と声をかけたら、その子、私の顔を見るなり逃げていきました。淋しい思いでしたよ。」
ある委員会で、年配の男性委員が苦笑しながら話されました。
- ・ 「数年前から、登下校時の子どもたちを見守っていると、子どもたちが『おじさん、ありがとう』、『おじさん、ただいま。今日もありがとう』と言ってくれるようになりました。その言葉を聞くと嬉しくて明日もやってやろうと、こちらが励まされています」
毎日、見守りボランティア活動をしている方が嬉しそうに話されました。

子どもと大人がお互いに**顔を知り合う**だけで挨拶が交わされ、言葉が掛けられます。ところが、知らない大人から声を掛けられると、危険な目にあうかも知れない今では、子どものほうに警戒心が働いて逃げ出してしまうこともあります。

地域における安心感のまず第一は、**顔を知り合う**ことだと思います。このことは、子どもと大人の関係においても、また、大人同士の関係においてもとても大切なことです。

顔だけでなく**名前を知り合えば**もっと親しいつながりになると思います。

「〇〇君、おはよう」と大人から名前を呼んで声を掛けられたれ、その子の不機嫌さも瞬間に消え去るかもしれませんね。

詳しくわからなくても、あの辺りの子どもだなど、**だいたい**の**所を知れば**さらに近いつながりになると思います。

このように地域の子どもの**知る**ことは、**子どもたちに安心感**を与えるとともに、人に迷惑を掛ける振る舞いを**セーブする力**を育てることになると思います。

地域の子どもたちを少しでも**知る機会**をいっそう多くもっていきませんか。